

NPO法人 北海道みなとの文化振興機構

もくじ

「第8回通常総会」開催……………	1	着ぐるみ（みなとのマスコット「ぼーとん」くん、	
みなとパネル展の開催……………	3	「べいくりん」ちゃん）貸し付け事業の紹介……………	5
WAKKANAI みなとコンサート 2010 開催 ……	4	平成 22 年度 助成事業の実施内容の紹介……………	6

「第8回通常総会」開催

第8回通常総会を平成23年2月25日(金)16時00分からセントラル札幌北ビルの会議室において正会員数268名のうち、240名（出席者70名、委任状提出者170名）の出席のもと開催しました。

総会の開催にあたり、来賓として出席された北海道開発局港湾空港部長の栗田悟様よりご挨拶をいただきました。

議案の審議内容は、以下の通りで原案どおり承認されました。

第1号議案（平成22年度事業報告）

- (1) みなとサポート業務 (2) ミニパネル展 (3) 広報活動 (4) 釧路港舟漕ぎ大会
(5) 港湾・空港・漁港の防災・災害に係わる活動支援 (6) みなと座談会
(7) ネットワーク強化 (8) 助成活動 (9) 事業調査 (10) その他・着ぐるみ貸し付け事業

第2号議案（平成22年度収支決

算書）並びに収支決算内容の監
査報告

収入額 4,382,872 円

支出額 3,620,970 円

繰越額 761,902 円

第3号議案（平成23年度事業計 画(案)）

- (1) みなとサポート業務
(2) 広報活動
(3) 防災活動支援
(4) みなと座談会
(5) ネットワーク強化
(6) 助成活動



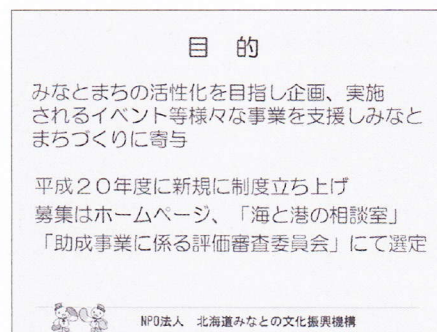
第4号議案（平成23年収支予算計画書(案)）

収入予算額 4,488,902 円、支出予算額 4,200,000 円、繰越予算額 288,902 円

第5号議案（理事及び監事の選任）については、理事・監事全員が任期満了につき下記のかたが満場一致で承認されました。

- ・理事 大和田 勲（退任）（社）北海道観光振興機構 専務理事
- ・同 大野 隆由（退任）前 NPO 法人北海道みなとの文化振興機構事務局長
- ・理事(会長) 藤田 博章（重任）北海道港湾振興団体連合会 会長
- ・同（理事長）中村 信之（重任）（財）港湾空港建設技術サービスセンター常務理事北海道支部支部長
- ・同 岩倉 博文（重任）北海道港湾協会 会長
- ・同 宮崎 英樹（重任）北海道港湾空港建設協会 会長
- ・同 小泉 信男（重任）（社）寒地港湾技術研究センター 理事長
- ・同 大西 育子（重任）女性みなと街づくり苫小牧代表
- ・同 古屋 温美（重任）国立大学法人 北海道大学 特任准教授
- ・理事 高橋 喜一（新任）みなと会会長
- ・同 吉原 吉蔵（新任）NPO 法人北海道みなとの文化振興機構事務局長
- ・監事 上原 泰正（重任）北日本港湾コンサルタント(株) 代表取締役社長
- ・同 水島 正夫（重任）(株)吉本組 専務取締役 札幌支店 支店長

総会終了後、中村理事長が特別報告として「助成事業の実施状況について」をパワーポイントを用いて報告致しました。



みなとパネル展の開催

当 NPO 法人では、一般の方々にも港の役割、暮らしとの関わりあいを広く理解して頂くため、毎年「ザ・シンポジウムみなと」の開催に協賛し、また、実行委員会の支援を得て「みなとパネル展」を企画、開催しております。

今年度は「ザ・シンポジウムみなと in 釧路」の開催に合わせて、11月16日(火)「釧路プリンスホテル」2階の会場出入口付近のスペースに、シンポジウム開始30分前の13時から15時過ぎまでの時間で開催しました。

展示パネル展の内容は、シンポジウムのテーマ「日本の食生活を支える東北海道と釧路港」に合わせ下記10枚のパネルを展示しました。

①北海道のみなと(港湾) ②北海道の貿易をささえる「みなと」 ③北海道と本州をむすぶ「みなと」 ④フェリーとRORO船 ⑤世界とつながる北の扉 ⑥人々の交流拠点「みなとまち」づくり ⑦耐震強化岸壁の整備 ⑧津波漂流物対策施設 ⑨海にやさしいエコポート(釧路港島防波堤) ⑩牛乳の旅(釧路港ホクレン丸)

また、当 NPO 法人の主な活動内容と設立までの経緯を紹介する下記2枚のパネルを展示しました。

①北のみなとをもっと身近に

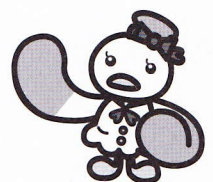
②NPO 法人の主な活動内容

シンポジウムに参加された多くの方は、北海道、特に釧路港が日本の食生活を支えるパネル「牛乳の旅」や「海にやさしいエコポート(釧路港島防波堤)」などについて興味を持たれ見ていました。

なお、シンポジウムの参加者は、570名を超えておりました。

また、当 NPO 法人の活動内容等を紹介したパネルについても興味をもたれ、会場に置かれた当 NPO 法人紹介パンフレットを持ち帰っておりました。

今回のパネル展の開催に当り、「北海道開発局港湾空港部港湾計画課」様からご理解とご協力により展示パネルを借用しました。また、パネル展開催について実行委員会、当 NPO 法人会員の皆様からのご協力を頂きました。厚くお礼を申し上げます。



WAKKANAI みなとコンサート2010開催

● 稚内のみなとを考える女性ネットワーク代表 高橋 由実子

今年で8回目の開催となる WAKKANAI みなとコンサートは、稚内港の北防波堤ドームを会場として8月22日(日)に開催いたしました。今年は最北の稚内でも異常な暑さでコンサート当日も焦げるような暑さでしたが来場者が約5,000人と大賑わいの日でした。

出演者も19団体、413名となり、12店舗の出店があり、今や稚内の夏のイベントの代表格となりました。

私たち「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」は、「行政機関や地元企業、市民、地域などとのパートナーシップを取り、まったく港の荷役や漁業に関係がなくても、港に関心を持ち学習すると共に、暮らしに係わりの深い女性の視点で港作りに貢献する事を目的とする」この心意気で WAKKANAI みなとコンサートを続けています。また「みなと街の元気は、活気のある女性の力で」と考えております。

稚内のシンボルである北防波堤ドームは、平成13年に北海道遺産となり、平成15年には土木遺産となりました。古代ギリシャ建築を思わせる半アーチ型ドームに響き渡る歌声や器楽演奏は本当に素晴らしいものです。

今年は、日本でも3本の指に入る合唱団の「エンジェルボイス&兵庫県稲美町少年少女合唱団」が初めて参加されドームに素晴らしい歌声をひびかせてくれました。

「水夢館キッズダンス」は3歳から10歳位までの子供達のグループでリズムに合わせ可愛いダンスで両親また祖父母の方はカメララッシュでした。

その他、NHKのど自慢稚内大会優勝者「グループさくら」の熱唱や稚内の郷土芸能となりました南中ソーランの熱演などで大変盛り上がりました。

店舗の出店も遠くは旭川市からの参加があり子供達に大変好評でした。

また、例年通り稚内市と稚内開発建設部稚内港湾事務所の皆さんによるパネル展は、皆さんからの質問も多数あり、地元の歴史が解ると大変好評でした。

みなとコンサートのような大きなイベントを行えるのも協賛団体や地元企業の皆様のご支援があるためと考えております。本当に感謝申し上げます。有り難うございました。





着ぐるみ（みなとのマスコット 「ぼーとん」くん、「べいくりん」ちゃん）



貸し付け事業の紹介

北海道のみなとのキャラクター「ぼーとん」くんと「べいくりん」ちゃんは、市民にみなとの役割を知ってもらったり、皆さまが海やみなとで楽しく過ごしてもらうお手伝いをするために平成11年9月に誕生しました。

「小さな赤ちゃんカモメ」をイメージした、とてもかわいい着ぐるみの男の子と女の子です。

空色の洋服を着た僕は男の子で「ぼーとん」といいます。ピンクの洋服を着たわたしは女の子で「べいくりん」といいます。

「ぼーとん」・「べいくりん」の図案はNPO法人北海道みなとの文化振興機構が商標登録しております。

キャラクターの着ぐるみは、全道のみなとのイベント等で使用していただきたく、当NPO法人が平成11年に1号を製作し、平成12年度より貸し付け事業を開始しました。その後、着ぐるみの利用状況が好評なことから、順次2号を平成13年に、3号を平成17年に製作し、現在3体を所有しております。

着ぐるみは、頭部・胴体・リボン・タイツ・靴で構成されております。

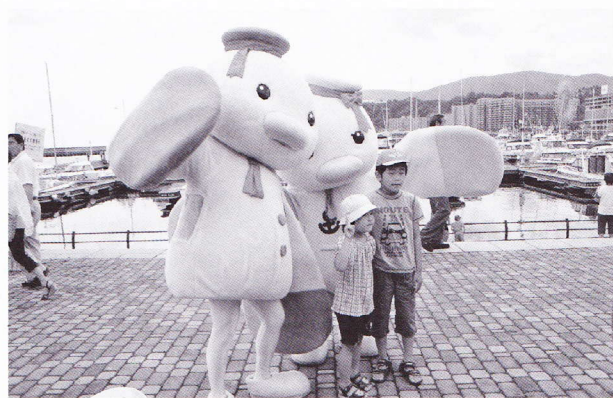
なお、当初は着ぐるみを無料で貸し付け事業を実

施しておりましたが、製作して年数が経過していることから破損や色あせに修理費がかかること、また、経年に伴ない順次更新が必要なことから、平成19年度より有料化にさせていただいております。

平成22年度の貸し付け状況は、7月20日の海の日を中心にパネル展等で下記のとおり8件のイベント等に利用があり、イベントに参加した子供たちは着ぐるみキャラクターと写真撮影するなどに大変好評でした。

- ① 7月 5～6日 岩内港みなと見学会
- ② 7月 16～18日 根室港 海の日事業説明会
- ③ 7月 18日 小樽港マリンフェスタ
- ④ 7月 18日 苫小牧港みなとパネル展
- ⑤ 7月 24日 釧路市 海の日パネル展
- ⑥ 8月 1日 函館ペリー来港回顧ボート競争
- ⑦ 8月 7日 苫小牧みなとまつり
- ⑧ 8月 22日 WAKKANAI みなとコンサート

当NPO法人では、平成23年度も貸し付け事業を実施いたしますので、ご希望の方はご連絡ください。なお、夏の期間はイベントが集中しておりますのでご希望にそえない場合がありますのでご了承ください。



平成22年度 助成事業の実施内容の紹介

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構は、道内のみなとまちの活性化をめざし企画・実施されるイベント等、様々な事業を支援し、「みなとまちの活性化」に寄与することを目的とした助成事業を実施しております。

平成22年度は、10件の活動について助成しております。前回発刊した伝言板で「みなと南極まつり副港ボートレース2010」、今回発刊する伝言板で「WAKKANAI みなとコンサート2010」を紹介しましたが、その他の助成事業について概要を紹介します。

第1回・市民海上大運動会 海上レースに声援 初の市民大運動会

築港臨海公園（小樽市築港）前の旧貯木場で8月1日、初の市民海上大運動会が開かれた。たらいレースと浮きの上を走る徒競走の2種類が行われ、強い雨にもまけず、水辺での遊びを満喫した。

小樽築港ベイエリア活用促進実行委員会と北海道新聞小樽支社の共催で、小、中学生や市民など延べ約60人が参加した。たらいレースは、ゴムチューブにセットした大型たらいに乗って、対岸とつないだロープをたぐり寄せて進みタイムを競った。体重でたらいが沈み込んで浸水し、「転覆」する参加者がいて、観衆の笑いを誘った。徒競走は、プラスチック

製の浮きを並べ、その上にくぐりつけた木の板を走る。往復60メートル。子供たちは軽やかなステップでゴールインし、大きな拍手が送られていた。一方、大人たちには「落ちてもいいぞ」などと声援が飛び、バランスを崩して勢いよく海へダイブする光景が目立ち、歓声が沸いた。2種類とも出場した倶知安町の北陽小6年、中山晴生（11歳）は「おもしろかった。海が好きなので、また海上運動会があったらしたい」と話していた。

（記事は北海道新聞を抜粋して掲載しました）



■ 室蘭の海としたしむ海の日コンサート 潮風とハーモニー めだかの学校 ■

「室蘭・めだかの学校（松田幹人校長）」、「みなと町づくりネットワーク室蘭（立野了子代表）」共催の「室蘭の海としたしむ海の日コンサート」が7月18日、舟見町の室蘭追直漁港・旧室蘭漁協事務所前で開かれ、海の香りをかぎながら元気な声で歌い上げた。めだかの学校が発足して17周年の今年は、平成24年度に供用開始予定のMランド構想をにらみ、初めて追直漁港を会場とした。約100人が集う中、立

野代表の進行で、誰もが知っている「うみ」で幕開け。「海」「夏は来ぬ」、新宮正志室蘭市長や我妻静夫市議会議員ら来賓が加わった「われは海の子」など大きな声で歌い元気を分かち合っていた。室蘭漁協の支援で市の魚・クロソイ汁が振り舞われた。同漁協女性部らが準備した自然の味覚に参加者は「おいしいね」と舌鼓を打っていた。

（記事は室蘭民報を抜粋して掲載しました）





水産物が消費者に届くまでを学ぶ漁業体験 「海の恵み学んだよ 大島小、中ウニ採り 松前」

松前町立大島小学校（清野雅之校長、児童 68 人）の 5、6 年生 25 人と大島中学校（千代谷正幸校長）の全校生徒 44 人が 7 月 22 日、江良漁港でウニ採りやウニのむき身など漁業体験をした。漁港の多目的活用を目指す町のマリンビジョンの取り組みの一つ。地元漁業者の船 3 隻に分乗し、ウニ採りに挑戦した。先端に挟みが付いている長さ 2～3 メートルの棒状の道具「ホコ」や箱眼鏡を使い、海底のウニを挟んで採った。次第に上手になり、大きなウニを

採るたびに歓声を上げていた。大島小 6 年の佐藤圭吾君は「船が揺れて採りにくかったけど楽しかった」と話した。採ったウニの殻を割り、専用スプーンでむき身（卵巣）を取り出し塩水に漬ける作業も体験。大島中 2 年の斉藤光瑠さんは「漁師さんの苦労が少し分かった」と話していた。そのほか、ウニの生態や流通の仕組みなどについても専門家の説明を受けて学んだ。

（記事は北海道新聞を抜粋して掲載しました）



特定非営利活動法人 北海道みなとの文化振興機構

〒001-0011 札幌市北区北 11 条西 2 丁目 10 番 4 号
セントラル札幌北ビル 5 階
TEL 011-727-3710 FAX 011-727-3710

ホームページアドレス
<http://minatobunka-npo.info/>

